

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100284		
法人名	(有)はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑 津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67番2		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokounyuu.jp/katgosip/information/public.do?JGD=3272100284&SCD=320&PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念のもとに、「ゆったりと楽しく自由にありのまま」に過ごしていただけるよう、その人その人の持ち味を活かし、できる事、できない事を見極め、共に穏やかな時の流れを共有するようにしている。地域の中へも出来るだけ外向き、近くの公民館や地区の行事への参加、保育園との交流もやっている。
 今期の目標に「介護の基本に戻る」「ケアの統一」の2つを掲げ、ミーティングやケアカンファレンスを中心に、基本に立ち戻って話し合いを行っている。又、認知症の正しい診断のもとに、それに沿った介護を職員が同じレベルで正しく行っていけるよう、はるひ苑の介護マニュアルを作成している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいた今期目標を新たに掲げ、全職員ではるひ苑介護マニュアルを作成し、質の高いケアに繋がれるよう取り組んでいる。医療機関との連携のもと、利用者、家族の希望に沿って初めて看取りを経験し今後の取り組み方について話し合っている。運営推進会議で地域の方々と話し合ったり、公民館、児童館活動などに参加し共に楽しんだり、毎月のたよりを民生委員さん達に送付したりして、地域に溶け込むよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・モニタリング・ミーティング時、皆で復唱し意識を再認識して実践につなげる様努力している。	日々の業務の中で、全員で理念に沿った支援が出来ているか確認し合っている。今期目標を立て、ケアに反映されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、お花見・盆踊り・運動会・空き缶拾いなど、地域と日常的な交流をしている。地区の陶芸教室に参加したり、作品展に展示させて頂いているが、一員となれるような交流は十分ではない。	自治会に加入し、公民館活動参加や中、高校生、児童との交流の機会も多くなった。「はるひだより」を地域の民生委員に送付したり事業所の様子を伝え、地域の一員となれるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体で認知症介護マニュアルの作成に取り組んでいるが地域への発信はまだ出来ていない。出来るだけ苑内の様子を見ていただけよう、見学や運営推進会議へお誘いしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・地域の方、近隣の施設の方などに参加して頂き、さまざまな立場からの情報交換が出来ており、サービス向上につなげる様に努めているが、まだまだ十分とはいえない。	事業所の取り組み、日常の様子を報告し、課題や協力依頼事項について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、出来るだけ相談やご助言をいただきながら言いやすい関係づくりが出来よう連絡を取っている。毎月のたよりは手渡しをするようにしている。	運営推進会議や毎月のたよりを手渡し、相談したいことがあれば共に話し合える関係づくりに努めている。助言や地域情報を貰いケアに活かすようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎回の会議で課題として取り上げ実践するようお互い声をかけ、定期的にチェックリストを記入して意識を高めている。夜間以外施錠することなく玄関、窓は開放している。	毎回の会議で具体的な事例で検討、勉強会を行ったり、チェックリストに基づくモニタリングを行っている。職員の意識向上に向けて管理者は内部研修に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と合わせて虐待身体拘束防止委員会を作り毎月の会議で課題として取り上げ、実践するようお互い声をかけ、定期的にチェックリストを記入して意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり今後も制度の説明やご家族へのアドバイスなど職員共々研修の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族に契約書、重要事項、パンフレットをお渡ししご本人にもホーム内を見学していただき、疑問、不安点についてはお話させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来苑の際には出来るだけ自室でお話され利用者からの不満、不服が言えるよう配慮し、面会簿にご意見欄を設けている。毎月の報告書など送付時にはご意見、ご要望が記載され返信できるようにしている。	利用者、家族に積極的に話しかけ意見、要望が言い易い雰囲気づくりに取り組んでいる。面会も増えてきているがまだ十分ではない。毎月手紙を出し、返信で意見、要望を貰うなど工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	モニタリング、ミーティング、責任者会議などで意見を聞く場を設け又、個別面談も年間計画の中に取り入れ職員の意見を取り入れるようにしているが、十分とはいえない。	ミーティングや会議、社長・管理者との個別面談などで意見を聞き、ケアや運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価、人事制度を行っており、向上心を持てる環境作りやスキルアップ研修もありやりがいのある職場作りしようと努めてはいるが、条件が良いとはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社は社内外の研修や学ぶ機会を多く持つ事を奨励しているが、地理的・金銭的な条件からなかなか外部の研修に参加できていないのも事実である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は益田圏域の管理者交流会にも出席し、職員は年2回のGH交流研修会で話題の提供や問題点など話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接もご家庭やサービス利用中のご本人にもお会いし状況を把握するとともに思いも傾聴し入居後もしっかり一対一でご本人とコミュニケーションをとり良い関係作りが出来るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、入居時、入居後もご本人、ご家族の思いもしっかり傾聴、相談に応じながら不安や心配事など何度にもわたりモニタリングを行い信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学時にご本人、ご家族の思いや状況を確認し入居が必要かどうか話し合いの場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場の中でそれぞれの得意分野を生かした役割作り又、不得手な方に対しても出番のある役割があるよう支えあいながら生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のご本人の様子も毎月の報告時にお伝えし、急な対応が必要などときにはその都度連絡、報告をしている。又、家族と一緒に外出時には身体状況、服薬等の情報の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時や外出時、地区の公民館の催しに参加したときには知り合いの方から親しく声をかけていただいている。	地域行事や児童館、公民館などの行事に参加し交流している。一人ひとりの支援に沿えるよう情報をノートに書き全職員で共有し実践に繋げられるよう取り組んでいる。	全職員で検討を重ね、この取り組みを進めて頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人のその日の状態に応じアクティビティを行い、難しい利用者の方には職員が間に入りより良い関係が保てるよう支援しているが、なかなか思うようにはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや他施設に入られた方にも面会するなどご家族とも思い出話ができる関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が日々の関わりの中でご本人の思いや意向を汲み取り、出来るだけご本人の思いを大切にしている。	入浴や食事の時など日々の関わりの中で話しかけ、把握に努めている。意思疎通が困難な方の思いの把握は、業務に追われ十分に出来ていない。	家族や友人などから情報を得たり、職員の気づきを出し合い、さらに利用者の思いの把握に努めて頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはケアマネジャーや施設の生活相談員からの聞き取りや、ご本人、ご家族にも日常的にお尋ねしセンター方式を活用しながらモニタリング、ミーティング時に話し合いを重ねケアに活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った暮らしや生活のリズムを把握し、ご本人の思いを大切にしながらその日の体調に合わせたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、ご本人の思い等月2回の会議時に担当者を中心に意見を出し合い検討し計画を作成、ご家族の思いや意見など毎月の返信用にて確認し次の計画に活かせるようにしている。	朝の申し送りや会議で気づき、様子の変化などを伝え、意見交換やモニタリングを行っている。家族に毎月報告し、意見や要望があれば計画に反映出来るよう話し合い計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録票に各職員が日々の気付きや意見など記入しその都度検討、情報の共有を図りながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のケアの充実を図るため問題点などは責任者会議等で取り上げ事業所全体の問題点としてそのサービスに関わり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園と交流会を年5～6回行っている。又中学生の体験学習も毎年受け入れている。小学校や高校とも交流が図れるように進めており、地域の理解を押し進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からの訪問診療が月2回行われ必要時には受診の支援、眼科、歯科受診時にも職員が同行し経過報告書をもとに状況の説明を行いご家族には受診報告書で状況をお伝えしている。	ほとんどの利用者は協力医の往診を受けている。歯科受診など必要時には同行して支援している。報告書でかかりつけ医や家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を導入し本人が安心して支援を受けられるよう常に相談、話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者（もしくは計画作成担当者）が付き添い情報の提供、担当医、ご家族と連絡を密に取り合いながら、職員も頻りに面会に行きご本人の状態の確認をする共に早期に退院できるように病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針は会社全体で話し合い共通理解のもとにより、ご本人にとってより良い終末ケアを目指して取り組んでいるが、緊急時に往診できる医師の問題の他、今後の課題も多い。	初めて本人、家族の希望に沿い、思い出の場所のDVDを流したり、話しかけながら看取りを経験した。学ぶことが多かったが緊急時の対応など不安もある。。	この事例をもとに、事業所全体で率直に話し合い、支援のあり方の検討を進めて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応の仕方、連絡網を作成しているが、応急手当などの訓練を頻度を上げて、定期的に行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災、避難訓練を行い地域の方にも参加、協力をお願いし日中、夜間対策も実施しているが、設置した設備の操作など、学習する必要がある。	地域の参加協力も得て、利用者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議で出た意見は取り入れ協力体制を進めている。今年度スプリンクラーを設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の基本姿勢を忘れず、その人その人に合った声かけで対応している。	日々の会話や排泄時の声かけなど、人としての尊厳を大切に一人ひとりの思いに沿った対応が出来るよう努めている。気づきを話し合い、プランに反映させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の意向に添うよう配慮し時々希望や不満はないか傾聴するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々のペースに合わせて自室で編み物をされる方、習字や手紙を書かれるなど自由に楽しんでいただけるように努力はしているが、もっと個別ケアを進めていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みの洋服を選んでいただいたりお化粧品をお勧めしたり、出来るだけ身ぎれいにさせていただく様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常時ではないが誕生日には好みの食事をお尋ねし準備したり、得意な方には調理をしていただいている。下膳や片付けを一緒にしている。	事業所菜園で収穫した野菜を皆で調理したり、近隣の方から季節の野菜を沢山貰い、美味しいものを楽しんで食べている。利用者に応じた調理手伝い、片付けなどを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとに栄養バランスを考慮した毎食の食事作りで、食事の摂取量の確認、水分補給もしっかり声かけを行い摂取していただくが難しい方には摂取しやすい形で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声かけ・誘導し、毎食後の口腔ケアを行い保清に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し出来るだけトイレで排泄できるよう職員間で情報を共有し支援している。	職員は情報を共有し、排泄パターンを把握して状況に応じた支援を行っている。ポータブルトイレの方がトイレで排泄出来るようになったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握して出来るだけ薬剤を服用しない支援を行っており苑独自のバナナ酢や牛乳などで定期的な排泄を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や身体状況に合わせて入浴している。	二日に一回の方が多いが、出来る限り意向に沿って入浴出来るよう心掛けている。拒む方には、音楽を流したり対応職員を代えたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早起きの方やゆっくりされる方、お昼寝をされる方など独自に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	モニタリング、ミーティング、申し送り時には話し合いを行い、服薬の変更や新薬についても共通理解しご本人の身体状況についても見逃しのない様状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水遣りや庭の草取りなどご自分の仕事としてされている方もあり習字も皆さんと一緒にされるだけでなく自室で練習されるなどある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事・外出は行っているが、日常的な外出についてはあまり出来ておらず、これから取り組んでいく必要がある。御家族の協力や行った先での地域の人々の協力を助けている。	地域交流、季節行事などの外出はしているが一人ひとりの希望に沿った支援はあまり出来ていない。	身体介助などの業務に追われる現状ではあるが、グループホームでは大切な取り組みなので、全職員で話し合い実践出来るよう工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に添いご自分で管理されている方もあり洋服や化粧品の購入時には職員が同行し一緒に選ぶなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご親戚、ご友人などに電話希望される時にはおつなぎし、荷物など届いたときには直接ご本人とお話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方の写真や季節ごとの作品、習字などの掲示をし、希望された場合にはお部屋にも飾り楽しんでいただいている。	季節の生け花、利用者の作品や写真が飾られている。畑や、寛げる畳部屋もあり、ゆったりと過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方との会話を楽しまれたり、お部屋でテレビを見ておられる方を訪問されたり自由に過ごされ天気の良い日にはお庭でお茶を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの家具等持ち込まれるようお願いし、テレビを持ち込まれた方は自室で好きな番組を見られる事もある。又ご希望の方にはご自分で作られた作品の掲示もしている。	使い慣れたタンスや孫の写真が飾られ、一人ひとりが落ち着いて過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った声かけで出来る事、できない事を見極めながら花の水遣り、庭の草取り、食器洗い掃除、洗濯ものたたみなどお願いし出来るだけ自立した生活が長く続けられるよう支援している。		